

留学報告書

2023年9月5日

林 文子

私は2022年9月から2023年8月まで、中国文化大学華語センターで中国語を学びました。留学する前に、すでに日本で10年ほど勉強していました。ただ、日本ではどうしても「読む」に偏りがちで、「話す・聞く」力は伸び悩んでいました。台湾へ留学し、本格的にマスターしたいと考えたようになったのですが、年齢的な面やキャリアの中断など不安要素が多く、長年留学するかどうか悩んでいました。そんな中、コロナ禍に突入。今後の人生を考える中で、やはり台湾に留学したいと強く思うようになり、留学を決意しました。そんな私が華語文奨学金をいただけることになり、本当に励みになりました。以前から、台湾は様々な立場の人に寛容な国だと感じていたのですが、どんな年齢の学習者に対しても、平等に学びの機会を与え激励して下さったことに、感謝してもしきれません。

留学する上で目標にしていたのは、1.中国語の能力を高める。2.台湾社会・文化の理解。3.台湾の教育業界について知り、次のキャリアに活かす。でした。

1つ目の目標、中国語に関しては挫折の連続でした。予習復習はもちろん、学校でも積極的に発言するよう努力をしていたのですが、「聞く・話す」能力が思うように伸びず、悩みながら試行錯誤を重ねました。先生からアドバイスを受け、毎日ニュースを見たり、教科書を何度も音読するなどして、頭の中で音と漢字を繋げる練習をし、少しずつ改善されていきました。ただ、まだまだ自由に中国語を操るには程遠く、これからも引き続き努力が必要だと強く感じています。

2つ目の目標、台湾社会・文化を理解することに関しては、日常の周り全てが先生でした。近所の伝統市場では、季節ごとに台湾特有のフルーツを目にし、お店の人に食べ頃や食べ方を聞くなどし、生きた知識を得ることができました。また、台湾には至る所にお寺や廟があるのですが、お参りの仕方や収驚と呼ばれるお祓いなど日本とは違う風習を体験することができました。そのほか1年を通し、様々な伝統行事を体験しました。春節には友人の実家を訪問し伝統的なお正月の過ごし方を見せてもらい、元宵節には天燈上げ、端午節には友人や大家さんから粽をいただきました。本やネットからの情報ではなく、実際に台湾文化に触れることができたのは、留学したからこそ得た大きな収穫だったと考えます。

3つ目の目標、台湾の教育業界について知るため、学校の事務室でインターンをしました。日本では教育関係の仕事に従事しており、今後も国際交流に係る仕事に就きたいと考えていたので、インターンの経験は大変勉強になりました。様々な国の学生の要求にも、親切に柔軟に対応していらした事務室の先生方が印象的でした。私自身、留学生と学校の間立ってみて、改めて国際的な支援をする仕事にやりがいと意欲を感じました。

1年間の留学生生活を過ごしてみて、これが終わりではなく、むしろ次のステップに進むスタート地点になったと感じました。幸い、台湾のクリニックで日本人の患者さんをサポートする仕事に就くことが決まりました。これからは学生としてではなく、社会人として台湾社会と関わり、中国語はもちろん、台湾の文化、考え方をより深く学んでいきたいと考えます。

最後に、私に新たな挑戦と成長の機会を与えて下さった中華民国教育部及び台北駐日経済文化代表処教育部の皆さま、そして台湾で出会った全ての方々に改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



お世話になった中国文化大学華語センター



作文力と表現力が鍛えられた発表課題



春節前の賑やかな迪化街



中国語の上達を願って飛ばした天燈